

会 議 録

会議名	第3回 山陽小野田市特別職報酬等審議会
会議日時	令和5年11月30日(木) 15時～16時
開催場所	市役所3階 第2委員会室
出席者	池田耕己委員 伊藤忍委員 伊藤實委員 岩佐謙三委員 比嘉朝康委員 平中政明委員 藤田悟委員 福重藍委員 松島由紀子委員
欠席者	田辺譲治委員
議会事務局	高松議長、河口事務局長
事務局	総務部長 辻村征宏 総務部次長兼人事課長 古屋憲太郎 人事課長補佐 福田智之 人事課主事 梅本綾香
会議次第	1 議事 (1) 市議会議員の議員報酬の額について (2) 市長、副市長、教育長、病院事業管理者及び水道事業管理者の給料の額について (3) 選挙管理委員会の委員、監査委員会の委員、農業委員会の委員及び教育委員会の委員の報酬の額について
会議内容	<p>会長 前回の会議の中で、議員報酬の審議の参考にするため、現在の議員活動の状況等について議会関係者に説明を求めてはとの意見が出ましたので、本日、議会より議長と事務局長にご出席いただいています。では、議員活動の状況等について、ご説明をいただき、その後、質疑を行えればと思います。では、よろしくお願ひします。</p> <p>議会事務局より議会の活動状況等について説明</p> <p>事務局長 資料10ページ「議会の活動状況等」を基に議会の活動状況を説明</p> <p>会長 議会事務局長からの説明がありましたが、みなさんいかがでしょうか。質問等がありますでしょうか</p> <p>委員</p>

議会活動については、実際合併当初からなかなか活性化しない中で、議会基本条例が策定されてからは、議会活動がすごく活性化したのはこの表を見てもわかります。実際、全国からの視察も増えたと同時に、こちらから全国各地への視察も増えた。報酬とは違うんですが、関連するため質問します。

現在の政務活動費が月6千円、年間7万2千円について、実際議会の議員の方がどう思っているかその辺りについて、率直な意見を聞きたいと思います

議長

今日は、ありがとうございます。

私の方から申し上げます。政務活動費の主な用途は先進地への視察が多いです。または書籍の購入とかがありますが、私の所属する会派に限って申し上げますと、視察に行くのだいたい一回でなくなります。そうすると、我々議員の議員活動においても非常にマイナスだということで、報酬を積み立てて足りない部分を補っておるという状況になっております。ほかの会派も満額使っているところは、同様に積み立てで補填を行っているという状況にあると理解しております。以上です。

委員

利用率については

議会事務局長

利用率については、いま予算が158万4千円、決算額が130万円ちょっとあるんですけど、今、議長のほうが申しあげましたように、議長の会派は100%執行されていますし、100%を執行されている方がほとんどです。コロナ化において視察等を自粛されたというところもありますので、全体で82.12%の執行率があるという状況でございます。

委員

今の意見は議会のホームページ等には公開されている情報ですか。

議会事務局長

公開しております。

委員

前回の議事録の確認なんですけど、2ページ、議員の方で、政黨員、宗教団体員、組合出身者、企業役員、元公務員などの方がどの程度いるか教えてくださいと言いましたが、具体的な内容については、開示は難しいとの回答がありましたので、これなんで具体的な開示が難しいのかがわからなかったので、次回までに調べておいてほしい。できれば教えてほしい

事務局
わかりました

委員
このように答えてないと思うので議事録をあとできかせてください。

事務局
わかりました。

委員
それからこういうふうに答えた内容も次回で結構です。

事務局
わかりました。

議長
さきほどの政黨員とかについては、現実の話ですので、私としては答えられますけど、答えなくていいですか

委員
これ全部こたえられる？

議長
政黨員は4人です

委員
宗教団体は

議長
宗教団体はいません

委員
宗教団体からの推薦は

会長
宗教団体が推薦するから議員になれたという人

議長
ちょっとデリケートな話になるので。

委員
実際わかってるんだろうけど、なかなかいえないところがあるんだろうけど

議長

会派組んでらっしゃるので、会派共産党 2 名、会派公明党 2 名です。これが政党からでられている議員です。なおかつ兼業議員が 5 名おります。そのほかは基本は専業。高齢の方はお仕事就かれてない方が多い。

委員

組合出身者というのは組合が推薦したからでれるのか

議長

組合出身者が 1 人おりましたが、今は組合出身者ではなくなりましたので今は 0 人です。企業の役員は、先ほどの兼業者で会社の代表者であったり 5 名です。

委員

元公務員は

議長

元公務員は 3 人です。

委員

要は、若い人とかが幅広くでれるようにそういうセクション以外の方が広く開放できるような空気感とか、世論形成がいるんじゃないかと、だからそういう人しか議員にでてないから難しいなど、この背景は、若者をもっとだしたいなど思うんです

議長

補足ですが山陽小野田市議会の平均年齢は 63 歳になっております。

委員

わかりました

委員

いま政務活動費の話があり今 6 千円でやってらっしゃる。あまりにも山陽小野田市の政務活動費は少ないんじゃないかと思うんです。美祢市の 2 万円の 3 分の 1 にもならない。そういうことでいいのかというのをなんで議員さんはいわないのか、非常に困っていると

議長

おっしゃるとおりです。

委員

この報酬審で政務活動費をあげるべきじゃなかということはいえる
んですか

事務局

はい。付帯意見としていえます

委員

わかりました

委員

資料の 10 ページの山陽小野田市の議員の今の報酬 37 万、委員長、議
長とありますが、合併当初も 37 万、その当時は山陽地区の三つ子の
赤字という赤字があるとのことで、病院やオートレースの赤字がある
ということで市長をはじめ議員も報酬をカットという状況で、また審
議委員会の報酬についてもカットという状況があったが、今はオート
レースも収益を生んでいる。逆にいえば山陽小野田市の財源のひとつ
になりつつある。病院については赤字が続いている状況だが、その当
時の経済状況と財政状況と比べると確実に改善されつつあると思う
んですが、報酬についてはずっと変わっていない気がするんですが、
今の報酬額になったのはいつからですか

議会事務局長

平成 10 年だと記憶しております。

委員

25 年くらい変わっていないのか

委員

四半世紀か。あがってないのか。

会長

あとは、ほかにはいいですか。ないようでありますので、議長、議会
事務局長については本日お忙しい中ありがとうございました。貴重な
意見として審議の参考とさせていただきますので、どうぞよろしくお
願いたします。

議長

ありがとうございました。よろしく願いたします。

市議会議長、市議会事務局長 退席

会長

今、話を聞くと、25年間ほど変わっていないと、先日も新聞に載っていたのですが、下松市が26年間据え置きだったが、議員報酬について議会からの要望を受けて、26年ぶりに報酬審議会をするようです。小野田市時代は、下松市の方が人口は多かったが、今は本市の方が人口も多くなっている。下松市の報酬額というのも一つの目安になるのではと思うんです

委員

前回も言ったように、市民感情からすると議員の定数を増やしちゃいけない、報酬をあげちゃいけないそれが慣例なんです。でも、議員が議員活動をほんとにどうやってやってるかというのは知らないで上げてはいけないというのはどうか。

もちろん、議員のなかでも差はあると思います、よくやる人とそうでない人と、だから議員の報酬をあげるときには抵抗があると思うんですが、でも二十数年間も上がってないということですし、わたしの見解では上げたほうがいいなという感じがしますね。

会長

いま委員から若干でも上げた方がいいんじゃないかという意見ありましたが、委員のみなさんの意見の方は

委員

私は、何年間あがってないっていうのには、あんまり意味がなくて、この資料をみせてもらった限りでは、だいたいほかの同じ規模の団体と比べてまあ真ん中くらいなのかなという感じはします。なにを中心にするのかわかりませんが、真ん中くらいなら、とりあえず、世の中もまだあんまり高景気という感じはしないので、もうちょっと景気がよくなった感じがするように民間もなれば納得感があるのかなというのが感覚としてあります。

会長

報酬額については、下松市あたりが人口も同じくらい、うちのほうが3千人多いですけど比較の対象になるんじゃないですかね。11ページの表をみると、うちの方がうちより人口の少ない下松市より下回っておりますよね。

委員

他との数値比較もあると思いますが、実際この街をどうしたいか、そういう議員がでないといけないんです、もう合併当初の状況とは違うんですし、いろいろな先進地に行って勉強してそれをフィードバックして、この街に活かしてもらえよう行動力のある議員をつくらないと、議会で質問もしない議員ではいけないんです。そういう面からいうと若い人、女性いろんな職域、いろんな人ができるような議会をつく

らないといけないと思うんで、今回は上げるべきだというふうに思います。

委員

やはり、要は報酬に応じた活動ができてるかどうかというのはある。やっぱり専門で行政に一生懸命やりたいと思う人、この仕事をやりたいと思う人にとっては、やはり少ないと思います。政務活動費があんなに少ないならなおさらで、あれで満足されたら市民も困ります。

委員

平成 26 年の答申でも、議員は調査研究をして、市民ニーズを把握するためにはフルタイムで議員活動ができることや多様な市民の議会参加という観点からサラリーマンが職を辞して議会に参入することを可能とする程度の収入が保障されることも必要ではないかとされており、締めくくりに、他市と比べても非常に活発・精力的な活動をされていることから、議会に有能な若い人世代が参加できるよう議員報酬の額について今後検討されたいとの答申がでているんですが、これが検討されていないのが問題だと思います。

委員

議員をやるにあたっては少しでも魅力的なものでないと、生活給でないとしても多少上げてもいいのかなとは思いますが。

委員

25 年間変わってないのはたしかに上げていいのかなとは思いますが。もし上げるとしたらどのくらいあげるかという話になるのかと思いますが、ただ、報酬をあげたからといって、その議員がすぐにすごく魅力的なものになるかというところはいかないのかなとも思うので、難しいなと思います。

今の世の中で物価が上がったりして、私たちみたいな人はけっこう厳しいわけですね。そこで、たしかに議員さんに頑張ってもらって地域の活性化につなげるのがいいのかなとは思いますが、今はちょっとそこがあるので現状維持がいいのかなと思います。

委員

私は、とりあえずあげてみてどうなるのかの目安としてあげてみてもいいのかなと思います。

会長

いま、委員さんにお聞きをしましたが、多数の方が上げてもいいんじゃないかとの意見をおっしゃっていました。

できたら決をとりたいと思うのですが、今までは全会一致が好ましいんじゃないかということで全会一致をしておりましたが、どうですかね。

委員

今回も全会一致が望ましいと思いますし、これが1万、2万あげたからといってどうなるかというのはわからないと思うんですが、やはりそういうような場に出ていこうというような体制づくりは大事だと思うんです。いま企業とかもヘッドハンティングでいい人材をいい報酬でひっぱってくるわけでしょ。そういう時代なんです。もう年功序列の時代じゃないんです。

だから、やはりいろんな若い人材が、よし、やろうというような街をつくらないといけない。やはりそういう目でみてもらいたいと思う。下関、周南がなんで20代、30代の議員がでるか、それは月額50万くらいあればやろうという気になる。そうでなければ家庭を犠牲にしてまでやろうという気にはならないと思う。

やはりこの街を年間何百億の審査をしてもらおう議員さんには、いけんことはいけんといえる議員さんじゃないといけない。そういう議員さんには、やはりそれくらいの報酬は必要だと思う。逆に選挙のときにみなさんがちゃんと判断せんといけんと思う。

委員

期末手当はずっと変わっていないのか。

事務局

国会議員の率にそって、変わります。毎年法律が変わるのでそれに伴って変動するということになります。今年度でいえば0.1上がる予定でございます。

委員

政務活動費を使って議員活動を行うことでスキルをあげて、報告をする。そこが適正に行われているか。それをちゃんとやっている人はあげるべきですよ。そういうことをやっていない人は上げる必要はない。

委員

私も報酬をあげて有能な人が議員をやってくれるというのはいいと思うんです。ただ、それが1万円2万円あげてすごく有能な人がくるのかというとそれは、そういう理由であげるというのはちょっと違うのかなと思う。あげるなら50万とかすごい金額ですごい人にきてもらおうというのがいいのかなと思う。

今回は、ずっと上げていなかったから上げるというのがいいんじゃないかというのがベースにあるのかなと思うので、少しはあげてもいいんじゃないかと思うが、その理由は、有能な人に入ってきてほしいという理由は違うのかなと思う。

それと今のご時世でなんとなくまだ世間の給料があがっているという感じはまだないのかなという印象があるので、民間の人も議員さん

あげてもいいんじゃないかという時点でバーンとあげてもいいんじゃないかと思うんですけど、いち市民の目線でいくと、よく理解していない部分も多いと思うんですけど、いまの雰囲気はまだ早いのかなという気持ちはあります。

委員

たしかにその意見もよくわかります。

1万、2万あげたってかわらないと思うし、でも継続的に山陽小野田市の場合は2年に1回報酬審をしていて、そういう場があるのにしっかりした議論がされず四半世紀も報酬額が据え置かれているのはもったいないと感じます。現在の議員の活動状況等を見てみると、少ない政務活動費の中で活動範囲は広がり、様々な市民ニーズがあると感じますし、活動する議員さんの報酬は本当に活動に相応しい報酬にあるのか疑問にも感じます。より一層精力的に活動してもらうためには少しでも議員報酬をあげることも必要ではないでしょうか。頑張る議員ばかりではないと思うので、報酬に見合った活動をしてきているかは選挙で判断することもできる。若い人や女性にも積極的に議員になりたいと感じてもらえたらいい。そういうことを期待したいと思う。

会長

さっきの委員の説明がよくわかったんじゃないかと思うんですが、今まで市議の中で給料が安いから議員のなり手がなくなるとかということがありましたけども今回のアップは、それが目的じゃなしに1万2万あげたからといってどうにもならんからね。それで県内の近隣の市町の表をみて、さっきから何回もいいますけど下松をだいたい平均にしてそれよりちょっとアップくらいのアップ率を考えた方がいいんじゃないかと思います。

委員

わたしもそう思います

会長

はい。よろしいですか。では今回あげるということで答申をだしたいと思います。

委員

額はいわんといけんのやないか

会長

それからあげるとするなら、どのくらいアップするのか。さっき委員がいったおられましたけど、

委員

1 万円で、委員長はなんぼか

議員報酬に関する討議

会長

今言われたのは、議員が 38 万で 1 万円アップ、副委員長が 38 万 3 千で 1 万 1 千アップ、委員長が 39 万 5 千で 2 万円アップ、副議長が 42 万で 1 万 8 千アップ、議長が 48 万で 2 万円アップ。これくらいでどうでしょうかね。

会長

次に、市長、副市長、教育長、病院事業管理者及び水道事業管理者の給料の額について、これはどうでしょうかね。

今、実は 10%ほどカット、自らカットということですね。

過去の報酬審でも、もとに戻すという答申をしているようですし、もとに戻すということでもいいでしょうかね。

委員

それでいいと思う

会長

本来支給すべき額に戻すということで。

委員

報酬審としてはそれでいいんじゃないかと思う。あとは自分たちで判断したら、それでいいんじゃないかと思います

会長

それなら市長等の給料については、本来支給すべき額にするという答申でよろしいでしょうか。

委員

はい

会長

では、そのようにします。

最後になりましたが、選挙管理委員会の委員、監査委員会の委員、農業委員会の委員及び教育委員会の委員の報酬の額について、どういたしましょうか。

こちら何年か前にまだあんまり日がたっていないころに改定をしたような記憶があります。

委員
実態が把握しにくいよね。

委員
うん。

委員
実際いまは4千円なんかね。

事務局
附属機関の委員さんは日額4千円ですね。

会長
本来は5千300円やった。それが千円になって2千になって、4千。千円の時代がありました。

委員
これは現状維持でいいと思います。

委員
別のところは月額がある。なんで日額なのか。

会長
日額がなんでか。前々回くらいにたしか変えたんじゃないか。

事務局
平成26年に変えてます。それまで月額だったんですが、平成26年に日額にしています。
月によって選挙があるときとないときと全然違いますから。

委員
それで活動があったときに払うんですね。

会長
では、これにつきましては現状維持ということでよろしゅうございませうか。

委員
はい

会長
それでは議員の政務調査費についてですけど、この審議会の審議対象ではありませんが、県内の他市と比較をしても著しく低いということ

でありますから、しっかりと議員活動をしていただくためにも執行部において検討していただく旨の付帯意見をつけたいと思いますがよろしいでしょうか。

委員

はい

会長

では、これを付帯意見としたいと思います。

委員

これ数字はいいんですか。

会長

額は

事務局

額までは。額も根拠があるならあれですが。

委員

根拠はないよね

事務局

そうですね。額も理由がつく額があるならば、あれですが。

会長

まあできたら倍くらいにしてほしい。最低でもね

委員

2万くらいに、美祿と同じくらいにせんと。2万でもたいしたことないけど

委員

県議会議員は35万くらいある。

委員

今の倍以上くらいがいいか

会長

それもまた調整を

事務局

わかりました

会長
以上、よろしいでしょうか。

また、現在の物価状況等を見て、全国的に報酬や給与を引き上げる動きもありますが、事務局より市職員においても年配層は給与改定はすぐわずかであるとの説明があったことから、このたびの審議会においては社会情勢の変動による改定ではないということで。今後も賃上げが続くようであれば2年後の報酬審において論議をされたらいいんじゃないですかね。

それと、5役の給料について令和元年の報酬審でカットを戻す答申をだしていますが、現在も市長自らの意思で10%カットを続けている状況です。現在、給料報酬のカットは合併後の厳しい財政状況を踏まえた時限措置であり、現在は財政状況も好転していることから今回は戻すべきと考えているが、そうした付帯の意見もつけようと思います。

委員
いいと思います。

会長
以上で、審議を終わりたいと思います。
この度の議論をとおして次回の会議までに事務局において答申案を作成していただきます。次回の会議で答申を決定することといたしたいと思いますがよろしいでしょうか

委員
はい

会長
よろしく申し上げます。それでは、これで終了とします。

事務局
次回の日程は
令和5年12月20日（水）15：00～お願いしたい。